



令和2年産（元年播種）



麦類の生育概況 vol.1

埼玉県マスコット
「コバトン」

（令和元年12月2日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要約

- ◎気象概況：11月の平均気温は高く、第5半旬にまとまった降雨があり、月合計の降水量は多かった。
- ◎生育状況：播種作業は平年に比べ遅れている。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・播種作業：適期を過ぎたため、播種量を1～2割増やし苗立ち数を確保する。
 - ・排水対策：明きよの掘削が未実施のほ場は必ず実施し、排水路と連結させる。
 - ・雑草防除：播種後土壌処理剤が散布できなかったほ場では、雑草の種類と葉齢を確認し、適期に茎葉兼土壌処理剤を散布する。
 - ・病虫害防除：晩播ほ場では、なまぐさ黒穂病やヤギシロトビムシの発生リスクが高まるため、種子消毒を必ず実施する。
 - ・麦踏み：3枚目の葉が出たら、ほ場の土壌水分状態に注意して実施する。

1 気象の概況

11月の平均気温は、第6半旬を除き平年より高く、月平均では1.1℃高かった。降水量は、第4半旬までは少なかったが、第5半旬にまとまった降雨があり、月合計では平年比153%であった。日照時間は、第5、6半旬で少なくなったが他の半旬では多く、月合計では平年比110%であった。

2 生育の概況

（1）所内生育相

ア 小麦（さとのそら）

10月の降水量がかなり多かった影響で、播種時の土壌水分が多くなっていた。また、播種後は高温で推移したため、出芽まで日数は8日で平年よりも4日早まった。

播種後の降雨により土壌表面がやや固まり、苗立率が平年より低く、苗立数は平年比92%と少なくなった。出芽後の生育は、11月29日調査時点では草丈・葉位が平年よりやや大きくなっている。

イ 大麦（彩の星）

10月の降水量がかなり多かった影響で、播種時の土壌水分が多くなっていた。また、播種後は高温で推移したため、出芽まで日数は8日で平年よりも2日早まった。

播種後の降雨により土壌表面がやや固まり、苗立率が平年よりやや低くなったが、種子千粒重が小さく播種粒数が平年より多かったため苗立数は平年比101%で平年並みとなった。出芽後の生育は、11月29日調査時点では草丈・葉位が平年よりやや大きくなっている。

(2) 県内全般

10月の台風19号による記録的な降雨などにより、水稻の収穫作業遅れやほ場が乾燥しなかったことなどから麦類の播種作業は遅れて、11月27日現在の麦類の播種作業は大麦56%（平年57%）、小麦36%（平年64%）となっている。

適期に播種されたほ場においても、土壌水分の高かったほ場や、播種直後にまとまった降雨にあたったほ場では、出芽不良や苗立数の低下が認められる。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

気象庁が11月28日に発表した1か月予報では、向こう1か月は平年に比べ晴れの日が少なく、平均気温は高い確率60%、降水量は多い確率50%、日照時間は少ない確率50%である。

また、11月25日発表の3か月予報では、1月、2月とも天候は平年と同様に晴れの日が多く、1月の気温は平年並みまたは高い確率ともに40%となっている。

(2) 生育予測

小麦、二条大麦とも適期に播種が行われたほ場では、初期生育は促進されるものと思われる。このため、暖冬傾向が継続した場合、過剰生育による生育後半の凋落が懸念される。一方、晩播ほ場では生育が促進されることで、播種の遅れによる生育遅れをある程度取り戻すと考えられる。

4 今後取るべき技術対策

(1) 播種作業

12月播きの場合は、苗立数（100～150本/m²）を確保するため、碎土率を高め、播種量を1～2割程度増やす。ほ場が乾燥している場合は、播種後に鎮圧を行うことで均一な出芽を促す。なお、遅播きの麦は葉枚数が減少し、節間が伸びて倒伏しやすくなるため、施肥量はやや控える。

(2) 排水対策

近年しばしば発生するまとまった降雨に対応するため、まだ明きよの設置を行っていないほ場では必ず設置する。設置済みのほ場でも、排水路と連結されているか、播種作業などで埋もれていないか等を確認し、問題があればすみや

かに補修する。

(3) 雑草防除

播種後土壌処理剤を散布できなかつたほ場や、麦の出芽や雑草の発生が始まつたほ場では、雑草及び麦の葉齢、雑草の種類を確認し、適期に使用可能な茎葉兼土壌処理剤を散布する。

(4) 病害防除

固定の水田転換畑や畑で小麦を連作している場合、コムギなまぐさ黒穂病の発生が懸念され、晩播によりそのリスクが拡大する。前年発生ほ場及びその周辺では種子消毒を必ず実施する。

(5) 麦踏み

麦の3葉目が出たら、年内に1回ローラー等で軽めに麦踏みを行う。ただし、土壌水分が高い状態で実施すると土壌が締まり湿害を助長するため、天候や土壌の水分状態に注意して実施する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 11月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	14.8	13.7	21.0	18.8	9.7	9.3	0.5	11.0	41.5	27.4
2	13.7	12.8	19.4	18.0	8.5	8.4	0.0	9.6	41.5	27.1
3	12.9	11.8	18.0	16.9	8.7	7.2	3.0	8.5	29.1	27.7
4	12.2	10.6	18.5	15.8	7.5	6.0	1.0	7.9	43.9	28.6
5	12.1	9.6	16.5	14.9	8.3	4.9	79.0	8.6	13.4	29.7
6	7.8	8.9	11.8	14.2	4.3	4.2	1.0	9.5	19.0	30.3
平均	12.3	11.2	17.5	16.4	7.8	6.7	合計 84.5	55.1	188.4	170.8

注. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値

2 玉井試験場試験ほ場の耕種概要

品種名	播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
		基肥	追肥
さとのそら	6.0	6	4
彩の星	6.0	7	2

注1. 播種様式:シーダーテープによる条播(条間30cm)

3 出芽状況

品種名	播種期		出芽期		苗立数		苗立率	
	本年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	平年差	本年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (%)	平年比 (%)
さとのそら	11月8日	11月10日	11月16日	-6	123	92	84	-7
彩の星	11月8日	11月10日	11月16日	-4	121	101	93	-2

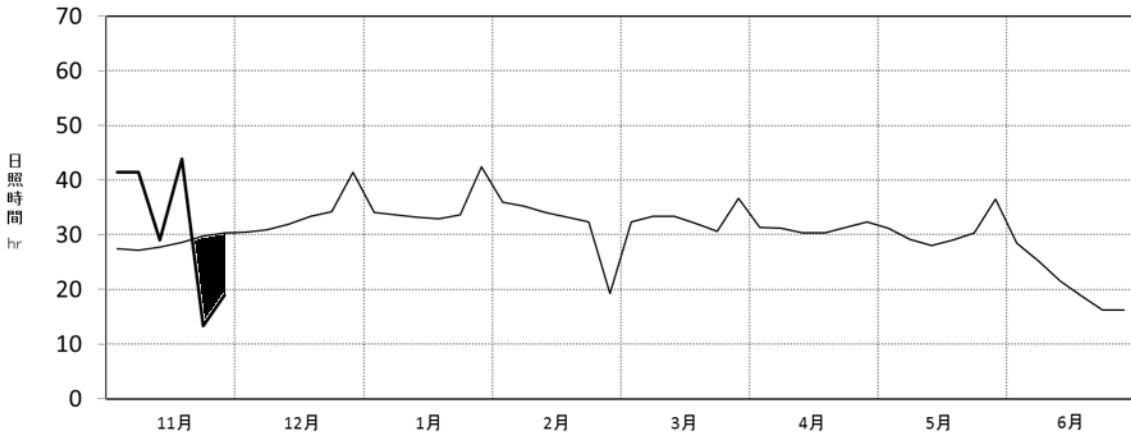
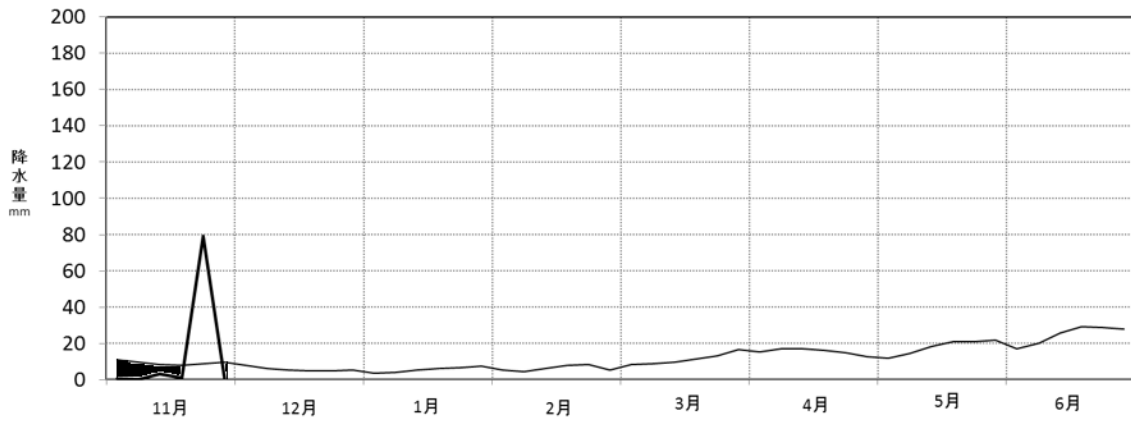
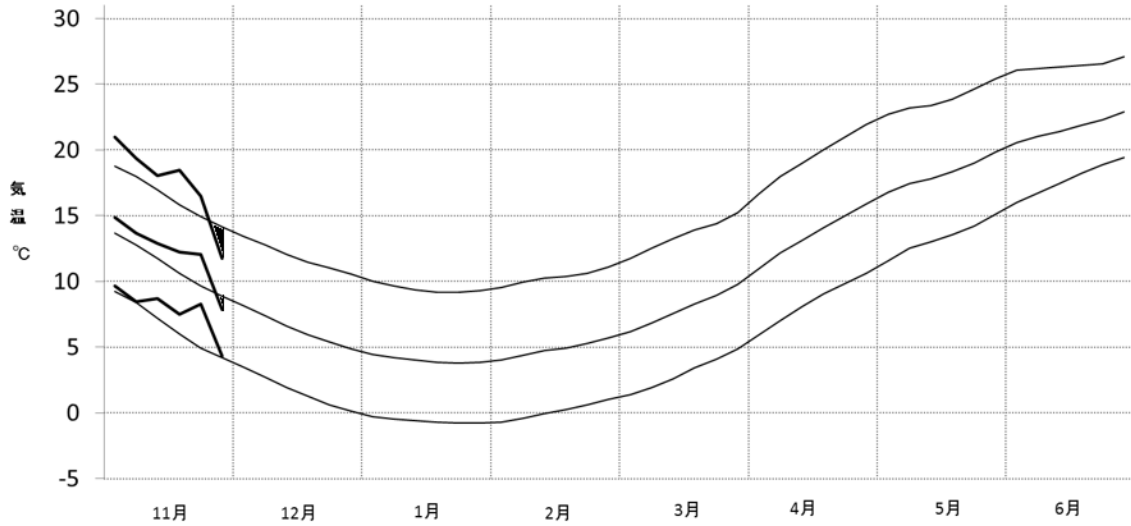
注1. さとのそら平年値は、過去6年間の平均値。

彩の星平年値は過去8年間の平均値。以下同様。

4 生育状況

品種名	調査日	草丈		茎数		葉位		風乾重		風乾歩合	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (L)	平年差 (L)	本年 (g/100本)	平年比 (%)	本年 (%)	平年差 (%)
さとのそら	11月29日	12.4	114	1.0	100	2.2	0.4	2.3	111	15.3	-0.8
彩の星	11月29日	11.5	106	1.0	91	2.0	0.3	3.0	96	12.1	-0.4

注1. 風乾重は、100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。



令和元年冬作期間気象図
(熊谷地方気象台測定値)